

**HUMANE
INTERNATIONAL
NETWORK
(HINT)**

—————HINT News Letter No. 42 目次—————

- Page: 1 エポペ・クリスマス、シスターリエンの手紙
Page2-3: ベトナム事業報告
Page4: アフリカ事業報告
Page5-6: HINT 講演会「世界に広がる感染症の現状」採録
Page7: アフリカ映画の窓
Page8-9: 2015 年度総会報告
Page9: 会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
Page10: 事務局からのお知らせ

エポペ・クリスマス降誕ミサ&チャリティパーティー開催

後援：HINT 特別ゲスト：V・ネラン氏（詳細：10頁参照）

日時：2015年12月23日(水・祝) 17:30 開場

降誕ミサ 18:00~19:00 (司式：オリビエ・シェガレ神父 パリミッション日本管区管区長)

チャリティパーティー：19:00~21:00 会費：7,000円(クリスマス・コース料理、ワインをはじめ
飲み放題・未就学児無料) 場所：「タントタント」渋谷東急本店8階 東京都渋谷区道玄坂2-24-1

お問い合わせ：エポペ・チャリティクリスマス実行委員会 (070-5565-5721 留守電対応)

★「エポペのホームページ」からお申し込みください。会場予約の都合上、12月17日(木)まで
にお申し込みをお願いいたします。

**シスターマリア・マルティノ・グエン・ティ・リエン
SCSS(慈善・社会奉仕協会)
からの手紙**

HINTの奨学金プロジェクトで2013年にベトナムの
カントー省にある医科大学を卒業したシスターリエン
からの10月8日付の手紙を掲載いたします。昨年の
「パパのような存在」であったホアン司教を失った悲し
み乗り越え、ご自分の使命を果たそうとしています。
引き続き、皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお
願いいたします。

親愛なるヒントのすべての皆さまへ、私は最初に、
皆さまが健康で平和であるようにという願いと尊敬
を込めた挨拶を送ります。

私はシスターマリア・マルティノ・グエン・ティ・リエン
と申します。ベトナムのファンティエツト教区の慈
善・社会奉仕協会(SCSS)の修道女です。

コーディネータのニン氏を通して、私は皆さまか
らの贈り物を受け取りました。私は心からヒントの
すべての会員の皆さまに心から感謝しています。



シスターリエンの医学部卒業写真

おかげさまで、私は卒業し、現在は医師として働
いています。私の現在の状況をお伝えすると、健
康診断や精神病患者、ハンセン氏病患者の担当と

して働いており、比較的よい環境で、この仕事にやりがいを感じています。

昨年の8月に、私は、協会の創設者で霊的な父親であったポール・ニュエン・タン・ホアン司教が帰天するという、大きなショックに直面しました。私は深い悲しみに沈んでしまいました。それでも今では穏やかな気持ちになって、ハムタン病院で医師としての仕事に行っています。



シスターリエンによる治療の様子

修道会では、私は人事編成の責任者となっており、その仕事をやり遂げるのは大変に難しいことです。私は自分の共同体の養成プログラムに役立つ基金を探しています。ご承知のように私たちは、霊的な面とお金と両方が欠けており、ホアン司教が会の使命として私たちに託した「福音を貧しい人々に運ぶ」ための理念を続けていくために、援助して下さる支援者と大勢の祈って下さる方々が必要です。

どうか、私たちのために祈りいただき、そして物心両面でのご支援を継続して下さいますよう、心からお願い申し上げます。

私たちは、皆さまに深く感謝し、常に、祈りの時間ごとに皆さまのために祈りをささげています。

願わくは主が、祝福された方聖母マリアのロザリオの祈りの取り次ぎを通して皆さますべてを祝福し、皆さまが喜びと自信を持って仕事をすることができるよう、健康と平和とがいつも皆さまを幸せにしますよう、心から祈りしています。 敬具

マリア・マルティノ・グエン・ティ・リエン(SCSS)

ベトナム事業報告

ベトナム人は86%がキン族、そして53の少数民族が住んでいます。HINTは、1996年からベトナムの小さな村に住む少数民族ラグライ族に、基本的な生活レベル向上に向けた農村開発支援をはじめました。この地域は、ベトナム戦争による北ベトナムからの戦争避難民が南ベトナムに向かう中で、定住を余儀なくされた貧しい地域です。

現地のコーディネーターは、元高校の副校長だったニエン・コン・ニン(NGUYEN CO NINH)氏です。現在、約300世帯、約1500人、ベトナムの貧困層(キン族)約500世帯 約2500人への支援が続けられています。

現地のカトリック教会の責任者である故ホアン司教の後継者のご協力と管理のもとで、各事業が現在も実施されています。

◆1996年にベトナム事業がスタート

HINTのベトナム事業は、1996年にベトナムの少数民族ラグライ族が住むタン・ハー村での、学校校舎の建設資金を援助したことから始まりました。

住民の多くがベトナム戦争時に北部から避難して定住した人々です。農業に適さない場所であるため、今なお、貧しく厳しい生活を送っています。



在りし日のホアン司教(上)シスターリエン(下)

◆上水道の建設資金の援助

1997年に、タン・ハー村に上水道(井戸)の建設資金の援助を行いました。また、1998年には(財)東京国際交流財団の助成を受け、ラグライ族への保健衛生指導プロジェクトを実施。無料診療所も建設し、同村の無料・低額診療所

のために医薬品購入資金の提供を開始しました。

◆乳牛プロジェクト

乳牛を贈るプロジェクトを開始し、2000年に乳牛4頭を贈りました。現地の子どもたちの栄養状態を飛躍的に改善させ、衛生的な管理の下、子牛が次々と生まれました。



薬草園の居住棟（上）と薬草（下）



◆薬草園建設

いまなお、西洋医学の薬は非常に高価で、手に入れることが困難です。しかし、より安価でしかもベトナム特有の伝統的な漢方薬（南方薬）のための薬草園を建設することにより、地域の人々の栄養状態を大きく変え、予防医学に基づく健康の増進や社会教育を図ることができます。

さらには雇用を促進し、余剰作物は都市部で販売することで、現金収入の道が開かれることにつながります。HINTの支援により薬草園の管理者を養成しました。2005年には、他のNGOの支援もあって2棟のグリーンハウス3,000㎡が出来上がり、アロエ、各種薬草、花などを栽培し、現地カトリック教会の漢方薬診療所で治療に役立てています。花は各教会などに切り花として売り、貴重な現金収入となっています。

◆診療所、漢方医師の育成

鍼灸治療院と漢方薬診療所を開設、鍼と漢方

薬による治療を行っています。鍼灸治療院では10名の鍼灸士が、漢方薬診療所では15名の漢方医と6名の看護師でスタートしました。

◆通学用自転車購入資金援助

ドンナイ省ロンカイ県ニャンギア村にあるユンラン修道院では、この村の貧しいキン族の人々や少数民族に対して、学校、無料の診療所などを運営しています。学校ではシスターが先生となり、女生徒に対して勉強だけでなく、裁縫も教えています。遠方から数時間をかけて通う子どもたちの足を確保するために、自転車を購入する資金援助を行っています。その修理費用も援助しました。

◆医師養成のための支援

冒頭でもご紹介いたしましたシスターリエンの手紙にもありますように、故ホアン司教のもとで働いていたシスターは、既に高等看護師の資格を持ち、ラグライ族の村へ定期的に出向き、医薬品提供とともに健康診断を行っていました。

さらに医師になる勉強をして地域の人々に尽くしたいという願いをもっていた彼女は、皆さまのご支援の結果、念願を叶え、今なお厳しい貧困状態にある現地で努力を続けて今年で三年目を迎えます。引き続き、皆さまの温かいご支援を何卒よろしくお願いいたします。



漢方医局の表示（上）と漢方医（下）



アフリカ事業報告

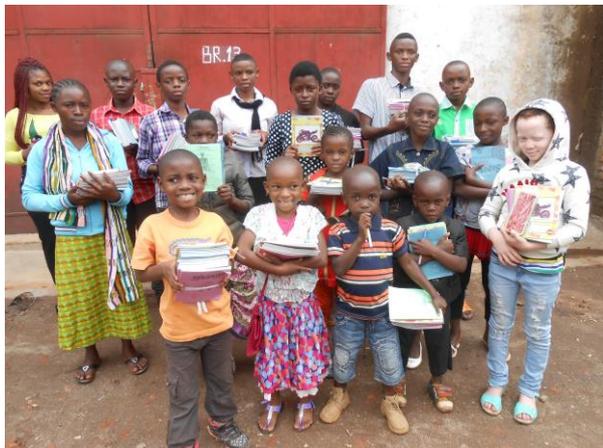
次年度の奨学金事業として例年通りの年間予算USD5,500を決定しました。また、5月20日に届いた2015年1-4月の精算書と領収書について精査し、適切に執行していることを確認いたしました。

また、現地コーディネータ代行であり、医師のアレン氏（本会奨学生）より、7月18日付のメールで、「コーディネータのタデー氏が犬に噛まれた。ブカブではワクチンがなく、治療ができない。非常に危険な状態である」との報告（狂犬病は発症してしまうと、ほぼ100%救命できない）がありました。ワクチンのあるルワンダの病院への緊急入院を承認し、生命にかかわる事態に鑑み、治療費を緊急送金しました。その後、完治したタデー氏ご本人より御礼の電話がありました。

ご承知の通り、奨学金は継続支援が重要です。皆さまの引き続きのご支援を何卒よろしくお願いいたします。



学用品を渡すアレン氏（上）と奨学生（下）



THANKS MESSAGE ADRESSED TO HINT EXECUTIVE COMMITTEE MEMBERS
AND DONORS BY STUDENTS FROM HINT AFRICAN PROJECT, D.R.CONGO
BUKAVU PROGRAMME OF SUNDAY SEPTEMBER 06, 2015

His Excellency Mr. François Xavier SHINDO, President,
Honorable members Board of Directors,
Dear Donors members,

It is with the heart full of joy that we, students of Bukavu, Democratic Republic of Congo, assisted in Programme of Hint African Project on the occasion of the end of the School year 2014 - 2015 and the beginning of 2015 - 2016, address to you the present message in order to reiterate our sincere thanks for your assistance for our studies that we have received from you.

In fact, nobody ignores the so many troubles that our country has known from time to time since 1996, above all here in the Eastern Congo Democratic. This assistance has been very benefic for us because, many of our friends, brothers and sisters or colleagues have not had this chance; they wander here and there without studies.

However, we know that nowadays, the global economical and financial crisis does not longer allow some local NGOs to answer favorably to requests addressed by their partners. But, HINT in spite of his difficult economical situation continues to fulfill our needs. That is the reason why HINT have right to get our sincere congratulations.

We always continue to pray, day and night for the co-operation between HINT and AHD for their activities in general and African Project/DRC programme in particular.

Your Students,

A. PRIMARY SCHOOL (EEP)

N°	Name and post name	Sex	School Name	Class	Signature
01	Gérard FUNGAFUNGA	M	EPA. YUYU	5th	<i>[Signature]</i>
02	Jordan ISHARA	M	C.S. LA SAGESSE	4th	<i>[Signature]</i>
03	KEIKA Thaddée	M	EP. HODARI	5th	<i>[Signature]</i>
04	LUZINDYA Mukambitwa Germain	M	Lycée International	2nd	<i>[Signature]</i>
05	OMONGE Françoise	M	EP. HODARI	4th	<i>[Signature]</i>
06	SALAMA Bengana	F	EP. ISANDA	4th	<i>[Signature]</i>



9月6日付の感謝の手紙と学生のサイン (小学生：上) (中・高・大学生：下)

B. HIGH SCHOOL (HSP)

N°	Name and post name	Sex	School Name	Class	Signature
01	Agnès MAHANGO	F	EDAP/ISP	4th M.P.	<i>[Signature]</i>
02	Augustine MWAYUMA	F	C.S. La Sincere	5th H.P.	<i>[Signature]</i>
03	ASINA Milungu	F	Institut FARADJA	1st C.O.	<i>[Signature]</i>
04	BANSOMBILE Ramazani Eric	M	Institut HODARI	6th H.P.	<i>[Signature]</i>
05	BAREGA Mundjo	M	Institut LUTOMBO	6th H.P.	<i>[Signature]</i>
06	Hélène WABULA	F	Institut FADHILI	2nd C.O.	<i>[Signature]</i>
07	ISHARA Mweshwa Janvier	M	Institut CIDASA	5th H.P.	<i>[Signature]</i>
08	Junior MUNGUMA	M	Institut MUNZHIRWA	4th SC	<i>[Signature]</i>
09	KAJUJI Christian	M	Institut MAPATANO	2nd C.O.	<i>[Signature]</i>
10	KANKISINGI Etienne	M	Institut du 50 naire	3rd THS	<i>[Signature]</i>
11	MISHUBO KYENGASUBI	M	Institut	1st C.O.	<i>[Signature]</i>
12	Lea ALIMASI	F	EP. UWAMINIFU	1st C.O.	<i>[Signature]</i>
13	MUSAGHI Kitangilwa Junior	M	Institut BAHATI	4th THS	<i>[Signature]</i>
14	OHELO Mulamba	M	C.S. LAPEREALUX	6th Const	<i>[Signature]</i>
15	OLEMBO Omba Rita	F	C.S. la PAIX	2nd C.O.	<i>[Signature]</i>
16	OLEMBO Shako Ricardo	M	Institut ALFAJIRI	4th SC	<i>[Signature]</i>
17	Philomène MOOSE Kyala	F	Lycée CIREZI	5th Sec.	<i>[Signature]</i>
18	SIFA Mulumeodethwa	F	Institut TEBURA	4th THS	<i>[Signature]</i>
19	WANGHA Musaghi	F	CS SIFA ZA BWANA	6th H.P.	<i>[Signature]</i>
20	WANY Musaghi	F		1st C.O.	<i>[Signature]</i>
21	ZAINA Efunga	F		1st C.O.	<i>[Signature]</i>

C. UNIVERSITY PROGRAMME

N°	Name and post name	Sex	School Name	Class	Signature
01	Dorothée MUKAMBILWA	F	Université M. Luther King	G1 Public Health	<i>[Signature]</i>
02	Dorothée MUSAGHI	F	UCB/BUKAVU	G1 Bio Medical	<i>[Signature]</i>
03	FAIDA Mbilizi	F	UEA/BUKAVU	G1 Sc Social	<i>[Signature]</i>
04	MMUNGA MAHANGO	M	Université Catholique de Bukavu	Doc 2 Medicine	<i>[Signature]</i>



HINT 講演会 「世界に広がる感染症の現状」

アフリカを中心に広がったエボラウイルスの猛威は記憶に新しいところですが、国際社会のターゲットにはマラリアの撲滅もあります。収束させるための方策とは何かを、感染症の専門家である狩野繁之氏からお話をうかがいました（2015年6月20日、於・新宿区落合第一地域センター）。



ユーモアを交えての講師のお話

1. はじめに

WHO(世界保健機関)が、2012年版として出した「世界の十大死因」を見てみましょう。

これは、貧しい国、お金持ちの国、中間の下、中間の上、で分けたときに十の死因を並べた疾病構造の図です。日本では虚血性心疾患(心臓病)、脳卒中などで亡くなりますが、開発途上国での試飲は呼吸器感染症、エイズ、下痢、マラリアなどです。

感染症が原因となる疾患がここです。開発途上国は感染症で亡くなる割合が高く、お金持ちになればなるほど、なかなか感染症では亡くならない。呼吸器感染症はインフルエンザや肺炎も含まれます。呼吸器感染症ではどこのレベルの国でも亡くなる人は多いのですが、エイズで亡くなる人は少なくなっています。トップテンには入ってこない。

マラリアは、世界では開発途上国では6番目です。つまり、感染症は開発途上国の方がより問題だということになります。最近、

タイ辺りは、かつては途上国と言われていましたが、今では新興国となっています。僕が子供だった時にいた丸々とした僕のような子供が今ではいっぱい見ることができます。開発途上国でも、肥満とか生活習慣病が少しずつ問題になってきていますが、しかし、まだまだ感染症で亡くなる人が多いということです。

きょうは感染症であるマラリアを中心にお話をします。マラリアは貧しい人たちの病気であります。本日のキーワードですが、三大感染症というものの見方で世界の疾患を考えるとというものです。加えて、新興・再興感染症。そして顧みられない熱帯病という範疇、また、輸入感染症・旅行者感染症という範疇でも考えます。

2. 三大感染症

三大感染症というのは、実は、世界の感染症だけを見た場合、どの感染症で亡くなるのが多いかで並べますと、先ほどのグラフからも予想がつくように、急性呼吸器性感染症で亡くなる人が年間350万人くらいいます。そして、エイズで200万人、下痢も200万人、結核が150万人、マラリアが110万人、麻疹が90万人という数であります。急性呼吸器性感染症の棒線と下痢の棒線はこのグラフで単一の疾患群ではありません。肺炎、インフルエンザ、たくさんの呼吸器感染症があります。

下痢も、細菌性赤痢で亡くなる人もいれば、ウイルス性の、たとえばロタウイルスとか、日本でも流行りますクリプトスポリジウムという牛とか動物が糞しているものを口から入れて人に集団感染を起こすような寄生虫性の下痢疾患もあります。こういう病原体がたくさん混ざっているのですが、下痢で亡くなる人は200万人くらいいます。単一の病原体のグループはエイズで亡くなる人が一番多くて、いわゆるエイズウイルスが亡くなる原因です。

結核は結核菌です。マラリアは実は寄生虫です。からだの人の病気を起こす段階では、小さい赤血球です。10ミクロン以下ぐらいの赤血球に寄生する単核の、核が一つの寄生虫で、原虫という言い方をしますが、マラリアだけは寄生虫ですが原虫と言います。ですので、単一の病原体の世界の三大感染症というのは、実は、エイズ、結核、マラリアとなります。それぞれの感染者は個別でなく、重複

して二つ、ひどいときは三つ全部感染している人もいますので、これらの疾患が撲滅できれば、世界で300万人が死なずに済むということになります。

3. マラリア

ここからマラリアの話をさせていただきます。昨年のクリスマス後にWHOが報告したワールドマラリアレポートという最新のデータです。

この地図に示すような濃いところほど患者数が多いわけですが、数えていくと97か国、年間1億9千8百万人という数の人たちが感染して、亡くなる数は58万4千人というように報告されました。

ただこの数字はWHOの報告なので、各国からの報告を足し合わせただけですので、実際はもう少しアフリカは多いと考えられている。わからない数字もありますので、きょう憶えて帰っていただけるのであれば、およそ100か国に流行していて、2億人の人が感染し、100万人が死ぬという病気と考えていただけるといい。100万人以上が亡くなったことは、われわれマラリアの専門家の中では常識なのですが、この100万という数を365という日にちで割って、24時間で割って、60分で割ると、30秒に一人がマラリアで死ぬという数が、実は100万人です。どれほど大きな病気かということがわかります。

しかも、感染者の80%以上がこのサハラ以南のアフリカ、皆さんがかかわっているこのアフリカの国々であり、やはり80%ぐらいが5歳未満の子供達です。

さきほどのグラフで、エイズと結核はこの黒いバーの5歳以上の数、マラリアは白いところで5歳以下ということになります。同じ三大感染症ですが、つまり、エイズ、結核は大人の病気ですが、マラリアは子供の病気ということが出来ます。アフリカの子供達が亡くなっていく病気である。何も悪いことをしていなくて、感染して亡くなるという病気です。

昨年の5月にランセットという、医学の領域では最も権威のある論文雑誌の一つですが、そこに報告された論文では、マラリアの流行が2000年から2010年の間に、大分良くなったというが、私はそんなに良くなっていないと思います。

一番濃いところが、75%の人が年間罹る、薄いところが年間1%ぐらいを示しています。スーダン、エチオピア、ケニア、ソマリアでタンザニア、最近アフリカに行かなくなっていますが、僕は元々はスーダンが専門でした。このまっ黒なところは、コンゴ民主主義人民共和国、そして西アフリカの方に大分濃いところがあってですね、まあ、論文の主旨は大分良くなっているということですが、実はそんなに良くなっていない。

ですから、実はマラリアというのは、アフリカに均一にべったり流行しているわけではなくて、近づいていくと濃淡が混ざっている。もっと言うと、この村にはあまりマラリアはないが、隣の村に行くとすごく流行していると、そのようなフォーカルな、まばらな流行を示すのが特徴です。

なぜかという、結局、マラリアを媒介する蚊がどれくらいいるか、蚊が喜んで生息する水辺が多いとか、なおかつ、人が集まっているとか、そのような人と蚊の密度がどれくらい混ざっているのかが問題になります。

サハラ砂漠は人も少なく、蚊も水辺がないので繁殖できない。マラリアがなくなる。南スーダンから北にかけて、ナイル川の流域はマラリアの流行があって、川に近いところは特に罹患率が高いということになります。

なんと言ってもアフリカはこのマラリアの中心です。

ではマラリアがいつからあったか、最近のトピックからお話いたします。

(次号に続く)

【講師プロフィール】

狩野繁之 (かのう しげゆき)

国立国際医療研究センター 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長

群馬大学医学部卒、同大学院博士課程(寄生虫学専攻)修了。同大学寄生虫学教室助教授を経て、平成10年より現職。筑波大学基礎医学系教授、ラオス国立パスツール研究所寄生虫研究室長、フィリピン大学公衆衛生学校客員教授、日本熱帯医学会理事長、日本カトリック医師会副会長、カトリック社会問題研究所幹事などを併任。

趣味：書道、空手、マラソン。

アフリカ映画の窓

コンゴ大使を務められ、HINTの講演会でもご指導いただいている高倍先生による、最新のアフリカ映画のご紹介です。

高倍宣義

アフリカ映画は大抵単館で上映されます。新聞の広告欄にも載らないので見逃しがちです。アフリカ協会のHPを開きアフリカ情報/アフリカ月刊ニュースにたどりつくとPDFがあります。その中で最新の映画情報が見られます。映画は、具体的な出来事がドキュメンタリーやドラマになるわけですから、その時代を反映します。2011年のアラブの春以降、特に今年はイスラムが広く関心を呼んでいます。IS(イスラム国)、ボコ・ハラム、アブシャバブなどイスラム武装勢力が起こす過激な事件と多数の難民・移民が出ている所以です。スーダンの紛争も映画になりました。



フランスで観客動員数100万人を記録したフランス・モーリタニア合作ドラマ「禁じられた歌声」より (c)2014 Les Films du Worso (c)Dune Vision

●11月28日(土)～12月4日(金)に下高井戸シネマで「涙するまで、生きる」

Loin des hommes/Far from men(2014年ダヴィッド・オールホッフエン監督)が上映予定です。「異邦人」(1967)、「最初の人間」(2011)に次ぐA.カミュの小説「客」の映画化です。1954年11月、独立戦争が始まったアルジェリアの奥地で元憲兵隊員の小学校教員をしているフランス人入植者とアルジェリア人の罪人が最寄りの裁判所まで連れ立っていく2日間を描いたドラマです。

●12月12日(土)～同18日(金)には、ユーロスペースで『イスラム—無映画祭2015』が開かれます。「禁じられた歌声」がオープニ

ング上映されるほか、パリに住むモロッコ人父子が中古車でメッカ巡礼に出るロードムービー「長い旅」Le Grand Voyage(2004)、マリが混乱する前の2011年に開催されたトアレグ族の音楽フェスティバルを撮ったドキュメンタリー「トンブクトウのウッドストック」Woodstock in Timbuktu(2013)が上映されます。

●2015年12月26日(土)よりユーロスペースにて公開される「禁じられた歌声」

Timbuktu(2014年 アブデラマン・シサコ監督作)は見逃せません。寛容と共生のイスラムを信じるサヘル出身の監督が、マリで実際に起きたことを組み合わせ、ジハーディストによる禁止・裁判と人々の抵抗を描いています。美しい風景の中で歌・言葉・演技で訴える傑作です。

●そのほか、今年は「トゥーマスト〜ギターとカラシニコフの狭間で」Toumast(2010年ドミニク・マルゴー監督)、「風に立つライオン」(2015年三池崇史監督)、「グッドライ〜いちばん優しい嘘」THE GOOD LIE(2014年フィリップ・ファラルドー監督)といった作品が本邦公開になりました。



(c)2014 Les Films du Worso (c)Dune Vision

2015年度総会報告

下記のとおり、2015年度総会を開催しました。すべての議案が承認可決されましたので、ここにご報告いたします。

記

●日時：2015年6月27日(土)14:00～15:00

●場所：新宿区落合第一地域センター
3階 第二集会室

●正会員数 25名 出席会員数 11名

1. 2014年度事業報告

詳細は事務局保管の議事録をご覧ください。

2. 2014年度決算報告

右をご覧ください。

3. 2015年度役員改選

代表 進藤 重光 (再任)
事務局長 石田 達也 (再任)
事務局長代行 長野 圭子 (再任)
アフリカ担当 高橋 章 (再任)
ベトナム担当 末吉 孝幸 (再任)

桐山 泰柁 (再任)

酒井 匠 (再任)

谷口 雅司 (新任)

監査 武井 秀彦 (新任)

4. 2015年度事業計画

詳細については事務局保管の議事録を参照してください。

5. 2015年度予算計画

9頁をご覧ください。

6. HINTの現状と問題及び改善案について

○現状と問題点

1) 現地の過酷な現状を伝え、子供たちの希望を拓くための基本的な改善策として教育や医療が必要であることをどのように発信するか。

2) 厳しい状況の理事会運営と事務局機能をいかに健全化させ、会員の増強を図り、会費収入を強化し、ボランティアが足りない現状を打開するための方策をどのように打ち出すか。

3) 現地コーディネータの福利厚生をどのように方向づけるか。

○今後の方針と改善策

1) 教会やYMCAなど諸団体との交流・連携を強化しつつ、HP、ツイッター、Facebook、メーリングリスト等のITの活用を積極的に図る。

2) 定期的に理事会に参加し、実務を常時担当していただける新たな理事・監事を迎え入れ、事務局業務を円滑に効率的に機能させる。

3) 参加していただきたい具体的な業務やイベントの日程を早目に公開するとともに、初めての方が参加しやすく、会費を払っていただけるようなニュースレターの企画発行を行う。

4) 現地と協議しながら、定年制度を定め、福利厚生費の基本的な限度額を決定する。

2. 2014年度決算報告

(2014年5月1日～2015年4月30日)

単位：円

I	経常収益	
1	受取会費	
	正会員受取会費	227,000
	賛助会員受取会費	548,000
2	受取寄附金	
	受取寄附金	63,635
3	受取助成金等	
	受取補助金	0
4	事業収益	
	普及啓発事業収益	143,500
5	その他収益	
	受取利息	107
経常収益計		982,242
II	経常費用	
1	事業費	
	(1) 人件費	0
	(2) その他経費	
	経済的支援事業	
	奨学金	629,871
	福利厚生費	507,820
	送金手数料	10,000
	普及啓発事業費	
	出展料	16,200
	原材料費	30,246
	会議費	5,000
	講師謝礼	20,000
	雑費	110
	広報事業費	
	通信費	32,062
	消耗品費	216
	その他経費計	1,251,525
	事業費計	1,251,525
2	管理費	
	(1) 人件費	0
	(2) その他経費	
	通信費	82,323
	会議費	9,900
	消耗品費	216
	印刷費	160
	雑費	0
	その他経費計	92,599
	管理費計	92,599
経常費用計		1,344,124
当期経常増減額		-361,882
税引前当期正味財産増減額		-361,882
法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		-361,882
前期繰越正味財産額		402,367
次期繰越正味財産額		40,485

5. 2015年度予算計画

(2015年5月1日～2016年4月30日)

単位：円

I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	300,000
賛助会員受取会費	400,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	200,000
3 受取助成金等	
受取補助金	0
4 事業収益	
普及啓発事業収益	200,000
5 その他収益	
受取利息	1,000
経常収益計	1,101,000
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
経済的支援事業	
奨学金	700,000
保険衛生支援	200,000
送金手数料	20,000
普及啓発事業費	
出展料	20,000
原材料費	25,000
会議費	10,000
講師謝礼	10,000
雑費	
広報事業費	
通信費	35,000
消耗品費	1,000
その他経費計	1,021,000
事業費計	1,021,000
2 管理費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
通信費	90,000
会議費	10,000
消耗品費	10,000
印刷費	5,000
雑費	5,485
その他経費計	120,485
管理費計	120,485
経常費用計	1,141,485
当期経常増減額	-40,485
税引前当期正味財産増減額	-40,485
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	-40,485
前期繰越正味財産額	40,485
次期繰越正味財産額	0

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿 (2015.5.1-2015.10.31・順不同・敬称略)

赤羽教会チャリティーコンサート実行委員会

GA コンサルタント 勝本 健司

佐藤 健一 谷口 雅司

村上 夫光子 米村 富士子

岡田 多恵子 石田 達也・倫子

東矢 高明 西嶋 久恵

野坂 俊弥 前田 陽一

グエン・テ・ホン 村井 厚子

末吉 孝幸 石間 裕

中山 善四郎 佐賀 邦夫

進藤 重光 小幡 行弘・朋子

長野 圭子 古城 かほる

禹 満 末永 恵子

武井 弥生 安藤 秀樹

久保 幹男 山田 篤

香取 嘉憲 高澤 佳代乃

島田 恒 桃井 和馬

春日井 明 市川 幸一

品田 和之 小林 貞

国分 一也 築木 純夫

大野 容子 國府 俊明

武井 秀彦 久米 一誠

上村 武夫 渡辺 潤子

酒井 匠 匿名の皆様

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★上記期間内に会費納入やご寄付をされているで、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT は皆さまの会費で運営されています。年会費 5,000 円で、ベトナムでは約 500 人分の給食を提供できます。コンゴで中高生約 2 人分の 1 年間の学費です。

★封筒ラベル一番下にある日付が貴方様が最後にお振り込みいただいた日付です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

HINT 事務局からのお知らせ

《活動報告》

● 赤羽教会チャリティーコンサートに参加しました

日時：2015年8月29日(土)13:30~17:00

場所：カトリック赤羽教会

アジアとアフリカの子供のためのチャリティーコンサートは今年も盛りだくさんでした。HINT は、支援先の雑貨紹介などを通して活動を紹介、PRを行いました。

● 2015年度総会を開催しました

日時：2015年6月27日(土)14:00~15:00

場所：新宿区落合第一地域センター3階第二集会室

総会報告を8~9頁に掲載しております。

会費振込のお願い

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用させていただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします(賛助会員:1口5,000円から・学生会員:1口2,000円。ご寄付の場合はご随意にお願い申し上げます)。

■郵便振替：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行：

記号 10010 番号 26990711

(他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711)

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行：新宿支店

普通預金：3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

エポペ・クリスマス降誕ミサ &チャリティーパーティー開催

後援：HINT

日時・2015年12月23日(水・祝)

17:30 開場

降誕ミサ・18:00~19:00

チャリティーパーティー：19:00~21:00

司式：オリビエ・シェガレ神父

(パリミッション日本管区管区長)

特別ゲスト：V・ネラン氏

※本会設立の母体となった交流の場「エポペ」、その創設者G・ネラン神父の来日30周年記念で「思いがけないプレゼント」として初来日された兄ご夫妻がおられました。現在お孫さんが日本に短期留学中です。そこで日仏交流継続の願いも込め特別ご招待。乞うご期待！
会費：7,000円(クリスマスのコース料理、

ワインなど飲み放題・未就学児無料)

場所：「タントタント」渋谷東急本店8階

JR・京王・地下鉄線「渋谷駅」(送迎バス有)

お問い合わせ：エポペ・チャリティークリスマス実行委員会 (070-5565-5721 留守電対応)

★「エポペのホームページ」からお申し込みください。会場予約の都合上、12月17日(木)までにお申し込みをお願いいたします。



渋谷東急本店・地図

特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田 3-24-7 平兵衛内

電話&FAX:03-6279-1080 e-mail・hint_info@epopee.co.jp

ホームページ・http://www.epopee.co.jp/hint